

電動アシスト自転車 取扱説明書

自転車を安全で快適にご使用いただくために必ずお読みください。

このたびは、お買い上げいただきありがとうございます。

いつまでも安全にお乗りいただくために、正しいご理解で使用していただくことが必要です。ご使用方法を誤りますと大きな事故につながりかねません。お乗りになるまえに、取扱説明書を良くお読みいただき、正しく安全にお使いください。お子様がご使用の場合は保護者の方が必ずよく読んで、正しい乗り方と注意事項などについてわかりやすくご指導ください。

お求めいただきました自転車は当社の厳重な品質管理のもとに生産されていますが、輸送中の振動等で組み付け等に緩みが生じる恐れがあります。ご使用にあたりましては、販売店や自転車店で必ず整備点検を実施してください。整備点検を実施せずにご使用された場合、品質保証の対象から外れることがあります。保証規定については、巻末および弊社ホームページをご確認ください。

この説明書は全車種共通となっております。図・写真は代表車種を記載させていただいているため、お買い上げいただいた自転車とは仕様が異なることがあります。

品質保証書および自転車点検チェックリスト付きです。
本書はいつでもお読みいただけるように大切に保管してください。

目次

はじめに	1	電源操作	27
安全上のご注意	2	発進のしかた	28
電動アシスト自転車について	6	変速機について	29
自転車各部のなまえ	7	施錠について	29
自転車の組み立て 軽快車、折りたたみ軽快車	8	バッテリー本体残量表示	30
自転車の組み立て 折りたたみ車	9	バッテリーの取扱い、充電のしかた	31
自転車の組み立て スポーツ車	11	お手入れと保管	35
自転車の組み立て 全車種共通 ペダル、カゴ	15	注油について	36
荷物を載せるとき	17	故障かな?と思ったら	37
幼児用座席の取り付けについて	18	防犯登録、TSマークについて	39
ハンドルロックの操作説明	18	点検、整備チェックリスト	40
お乗りになるまえの点検と調整	19	品質保証規定	41
交通ルールについて	23	仕様書	別紙

はじめに

- ・購入後は必ず自転車取扱専門店における有技術者の初期点検および定期点検を実施してください。
- ・本自転車は日常生活用として設計されています。
- ・業務用・競技用としてはお使いにならないでください。
- ・お買い上げ店舗にご確認のうえ、必ず防犯登録を行ってください。
- ・自治体によっては、保険の加入が義務づけられています。自治体の指示に従ってください。
- ・取扱説明書は読んだあと大切に保管して、必要に応じてご活用してください。
- ・自転車をほかの人に譲渡される場合は、取扱説明書と保証書を一緒にお渡しください。
- ・品質・性能の向上及びその他の事情により、予告なく仕様変更をおこなう場合があります。
- ・本書のイラスト、写真は、イメージです。
お買い上げいただいた自転車とは、形状、デザインが異なる場合があります。

警告表示について

警告表示は危険の程度に応じて次の区分で表示していますのでとくに注意してください。

 警告	取扱いを誤った時に使用者が、死亡もしくは骨折などの重傷を負う可能性が想定されるもの。
 危険 注意	取扱いを誤った時に使用者が、障害を負う危険が想定されるとき及び、物的障害のみの発生が想定されるもの。
 禁止	危険の程度と関係なく、道路交通法で禁止されている行為（荷台等に二人乗りをする等）又は、当自転車ではいけない行為。
 強制	使用者に必ず実行していただきたいこと。

安全にご使用いただくためのご注意

- ご使用の前に必ず、次頁の「安全上のご注意」を良くお読みいただき正しくお使いください。
- お子様がご使用の場合は、保護者の方がこの「安全上のご注意」を必ずお読みいただき、正しい乗り方をご指導ください。
- 製品を正しく安全にお使いいただくための注意事項を記載しています。
安全に関する重要な内容です。必ず守ってご使用ください。

安全上のご注意（自転車）

警 告

 強制	<p>購入後は必ず自転車安全整備士や自転車技師またはそれと同等の技能を有する者により点検を受ける。整備・調整されていない自転車に乗られますと、転倒や事故につながる恐れがあります。</p>
	<p>ご使用開始から2ヵ月以内に販売店で、自転車安全整備士や自転車技師またはそれと同等の技能を有する者により点検を受ける。ご使用開始から2ヵ月ほどで各部のねじがゆるむことがあります。</p>
	<p>6ヵ月ごとにお近くの自転車販売店で自転車安全整備士、自転車技師またはそれと同等の技能を有する者により点検を受けてください。</p> <p>また、部品の交換は下記の目安で行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ブレーキワイヤーは、異常が無くても2年に1回は、交換してください。 ●ブレーキレバーの遊びが大きいものはすぐに販売店で調整してください。 ●ブレーキシューは、溝の残りが1mmになる前に交換してください。（※純正部品と交換） ●チェーンのたるみの大きいものはすぐに販売店で調整してください。 走行時にチェーンが外れる恐れがあり危険です。 ●タイヤは、接地面（トレッド）の溝が無くなる前に交換してください。
	<p>消耗品を交換するときは純正部品を使用する。（純正部品以外の使用で故障や事故によるケガの恐れ） 部品のお求めは販売店またはサポートセンターにご相談ください。</p>
	<p>前後ブレーキ動作やハンドル・車輪の固定、タイヤ空気圧などの乗車前点検をおこなう。異常があれば、事故につながる恐れがあります。 空気圧が適正でないとパンクやリムの破損による転倒でケガをする恐れがあります。</p>
	<p>自転車用ヘルメットを着用。頭部の保護のために有効です。 幼児を同乗させる場合も必ず自転車用ヘルメットを装着させてください。</p>
	<p>走行中に異音が発生したり、自転車が転倒したり、水に浸かってしまったなどで異常が発生した場合は直ちに使用を中止し、保証書記載のサポートセンターまでご連絡ください。 そのまま使用を続けると事故や故障の原因になります。</p>
 禁止	<p>サドルやハンドルは引き上げ限界点標識が見えるまで上げない。 サドルやハンドルの折れや抜けによる、転倒や衝突によるケガの恐れがあります。</p>
	<p>けんけん乗りはしない。転倒や接触事故によるケガの恐れがあります。</p>
	<p>歩道の段差や溝など凹凸の激しいところを走らない。 フレームや車輪の損傷や転倒によるケガの恐れがあります。降りて押して歩いてください。</p>
	<p>前ブレーキだけを強くかけない。車輪がロックして自転車が前方に転倒し、ケガをする恐れがあります。必ず後ブレーキをかけてから前ブレーキをかけましょう。</p>
	<p>スピードを出しているときは急ハンドルの操作をしない。 曲がるときはスピードを出し過ぎない。スリップや転倒によるケガの恐れがあります。</p>

 警 告

荷物をハンドルや手にかけてたり、ペットをつないで乗らない。
荷物が車輪に巻き込まれたり、バランスを崩して転倒によるケガの恐れがあります。

回転部分に手や足、物を近づけない。巻き込みや転倒によるケガの恐れがあります。

巻き込みやすいものを車輪やギアに近接させて乗らない。※長いスカートやマフラー、傘など
車輪の異常ロックを引き起こす原因となり大変危険です。

傘や釣りざお、ステッキ等を車体に差し込んだり下げたりして乗らない。
車輪に巻き込んだり、人や物にぶつけて事故や転倒によるケガの恐れがあります。

かかとの高い靴や、滑りやすい靴を履いて乗らない。
足がペダルから外れて、転倒によるケガの恐れがあります。

二人乗りは禁止。
※6歳未満の子供を幼児用座席に一人乗せる場合や幼児二人同乗用自転車を除く

雨のとき傘を持って乗らない。雨合羽やレインコートを着用するときは車輪に巻き込まれ
ないように注意してください。雨のときは制動距離が長くなり、スリップしやすくなるので、
衝突や転倒の恐れがあります。スピードを落としてゆっくり走りましょう。

雨・風・雪のひどいときは、乗らない。
バランスをくずし、転倒によるケガの恐れがあります。



禁止

夜の無灯火での運転は交通違反です。視界が悪い時（夜間、トンネル内、霧など）はライト
をつけて走行してください。前照灯が故障していたり、リフレクターが破損あるいは汚れて
いる場合は自転車を押して歩いてください。

走行中に手や足で前照灯の角度調整はしない。
※停止した状態で、前照灯の角度を調整してください。
前方不注意となり、転倒や衝突・手足が車輪に巻き込まれケガをする恐れがあります。

合図以外は、ハンドルから手をはなさない。
バランスがとりにくく、転倒によるケガの恐れがあります。

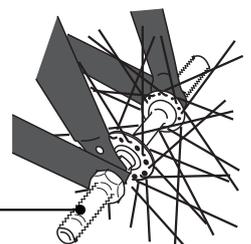
スポークの間にボール（固形物）などを入れて走らない。
車輪に巻き込まれて、転倒によるケガの恐れがあります。

自転車を走行以外の目的で使用しない。
腰掛けや踏み台などの目的外のことで使わないでください。

改造や分解はしない。
ハブステップの装着は危険な改造です。
その他歩行者に危害を及ぼすおそれがある突出物を装着してはいけません。

修理や分解、部品の組付けは自転車店にご相談ください。

ハブステップ



⚠ 警告

<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 5px;">⊘</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">禁止</div> </div>	<p>走行中は電源スイッチ、アシストモードスイッチ、ライトスイッチの操作をしない。 前方不注意となり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。 必ず停車した状態で操作してください。</p>	
	<p>走行中に残量表示ランプ等を注視しない。 表示に気を取られ、前方不注意となり、衝突や転倒によるケガの恐れがあります。</p>	
	<p>飲酒運転は禁止。</p>	
	<p>かぜ薬などを服用してるとき、また体調が悪いときは乗らない。</p>	
	<p>ヘッドフォンを使用しながらの運転はしない。</p>	
	<p>携帯電話・スマートフォンを使用しながらの運転はしない。</p>	
	<p>水洗いはしない。 浸水により電気部品や配線の絶縁が劣化して、漏電など故障の原因になります。</p>	
	<p>リムに著しい摩耗や傷があるときは乗らない。リムの破損または強度低下による転倒の危険があります。 交換は販売店もしくはお近くの自転車専門店にご相談ください。</p>	
	<p>ブレーキパッド、タイヤ、リムには注油しないこと。 ブレーキが効かなくなり、衝突によるケガの恐れがあります。</p>	
	<p>異常がある場合は乗らない。 異常があるまま走行すると事故や転倒によるケガの恐れがあります。</p>	

● 点検・整備および部品交換時の専用部品締付トルク

前ハブナット	20N.m ※駆動モーターハブの場合は、35N.m
後ハブナット	30N.m ※駆動モーターハブの場合は、35N.m
カートリッジ BB (トルクセンサー)	40N.m
チェーンリング	4-5N.m
クランク軸ボルト	40N.m

安全上のご注意（バッテリー・充電器）

危険

 強制	アシスト自転車専用バッテリーです。他の機種・機器・用途には使用しない。液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
	バッテリーを充電する場合は専用の充電器を使用する。他の充電器を使用すると、発火・異常発熱・故障・破裂の恐れがあります。
	バッテリー液が衣類や皮膚に付着したときは、ただちにきれいな水で洗いながす。バッテリー液が目に入った時は、こすらずきれいな水で十分洗いながし、ただちに医師の治療を受ける。失明の恐れがあります。
 禁止	バッテリーに衝撃を与えたり、分解や改造はしない。ケースの破損、感電、液漏れ、異常発熱、破裂、の原因になります。
	充電器の分解・改造や端子間のショートはしない。感電、発火、異常発熱の恐れがあります。
	直射日光の当たる場所、室温が35℃以上の場所、湿度の高い場所では充電しないこと。充電器は屋内専用です。野外では使用しないこと。異常発熱を引き起こす原因になります。
	火のそばなど高温の場所での充電・使用・放置はしない。自転車本体からバッテリーを外して充電してください。液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
	バッテリーを火中に入れたり、過熱をしない。液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
	端子（+ -）に金属などを接触させない。感電や液漏れ、異常発熱、破裂の原因になります。
充電中は、同じ箇所を長時間皮膚に触れさせない。温度が40℃～70℃になる場合があります、低温やけどの恐れがあります。	

警告

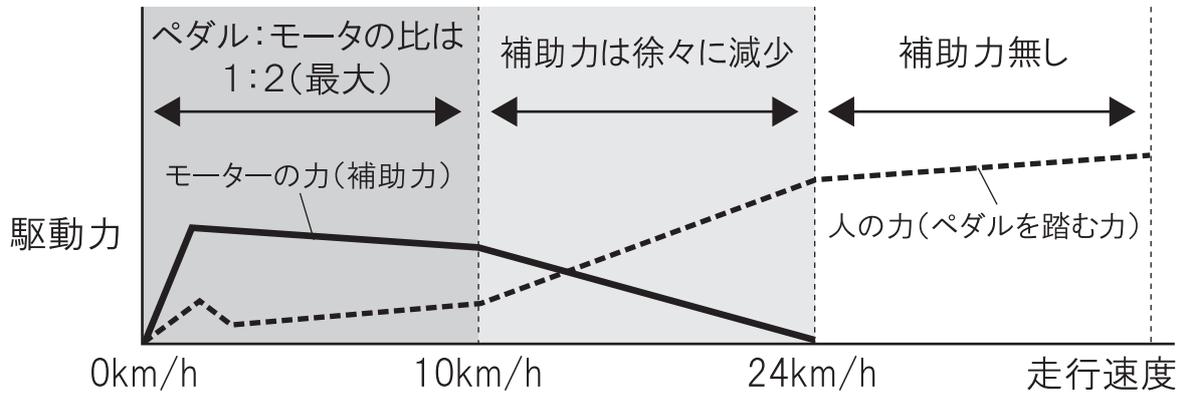
 強制	電源プラグは根元まで差し込む。不完全な差し込みだと、感電や発熱による火災の原因となります。また、充電時以外はコンセントの接続を外すこと。
	電源プラグや充電端子についたほこりなどは取り除き、油などは付着しないようにする。感電や発火の恐れがあります。
	充電器のケース・コードやプラグが傷んでいたり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。感電、発火、異常発熱の恐れがあります。
 禁止	損傷したバッテリー・充電器は使用しない。異常発熱や破裂の恐れがあります。破損したまま使用すると液漏れの恐れがあり、目に入った場合は失明する恐れがあります。
	幼児、ペットなどが触れる可能性がある場所には放置しない。
	充電中は充電器とバッテリーは5 cm以上の間隔をあげ、覆い等で空気循環を妨げないこと。発熱して、火災の恐れがあります。
	充電器本体に、電源コードを巻きつけて保管しない。感電、故障、火災の原因になります。
	電源プラグをぬれた手で抜き差ししない。感電する恐れがあります。

電動アシスト自転車について

電動アシスト自転車は普通の自転車と異なり、ペダルアシスト付きの自転車です。電動アシスト自転車についての正しい知識を身につけましょう。

●ペダルアシストとは

人がペダルを踏む力に応じて、モーターの補助力を加えて走行を助ける機能です。



下記のようなときはペダルアシストが働きません。

- 速度が24km/h以上のとき。速度が24kmに近づくとき補助力は徐々に減少していきます。
 - ペダルを踏む力が弱いとき。
 - ペダルの回転を止めているとき。
 - ブレーキレバーを握ったとき。(断電ブレーキ搭載車種に限る)
 - バッテリー残量が少なくなったとき。
- ※バッテリー残量が少なくなるとペダルアシストは働きませんが、普通の自転車として走行できます。

走行できる距離の目安・・・別紙の自転車仕様書をご確認ください。

バッテリー充電時間の目安・・・

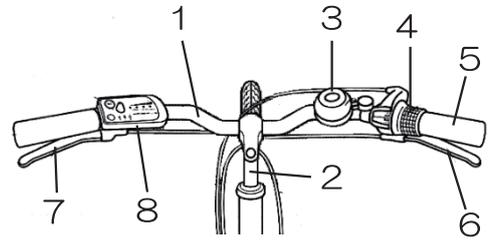
バッテリーの容量	充電時間
4.0 Ah	約2時間20分
5.8 Ah	約3時間30分
8.5 Ah	約5時間

- バッテリー本体の残量表示ランプが1つになってから充電した場合の時間です。
- また充電前のバッテリー状態や充電環境温度などにより異なります。
- ご購入後、はじめての充電は多少充電時間が長くなることがあります。
- バッテリーの取扱い説明(P31)をよくお読みのうえご使用ください。

自転車各部のなまえ

画像で説明する自転車は各車種の代表モデルです。
ご購入いただいた自転車とは仕様が異なる場合があります。

軽快車・折りたたみ軽快車



※折りたたみ軽快車については下部折りたたみ車もいっしょにご確認ください

折りたたみ車



スポーツ車



1	ハンドル
2	ハンドルステム
3	ベル
4	グリップシフト
5	グリップ
6	前ブレーキレバー
7	後ブレーキレバー
8	操作パネル
9	フレーム
10	Fフォーク
11	ブレーキワイヤー / 配線
12	カゴ
13	ブレーキ
14	ライト
15	タイヤ
16	リム
17	空気バルブ
18	モーター
19	ペダル
20	ギヤクランク
21	チェーンケース
22	チェーン
23	スポーク
24	スタンド
25	泥除け
26	後リフレクター
27	サークル錠
28	後キャリア
29	ドレスガード
30	サドル
31	シートポスト
32	バッテリー
33	折りたたみレバー

自転車の組み立て 軽快車・折りたたみ軽快車

自転車本体を箱から出し、梱包材をすべて取り外してください。

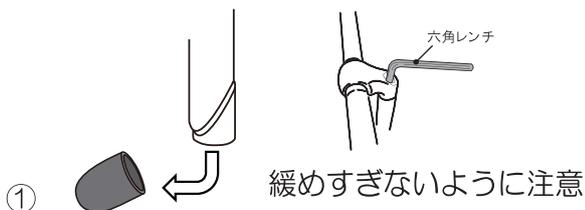
折りたたみ自転車の場合は、本体の組み立てから行ってください。本体の組み立て方法については、9ページをご覧ください。このページでは、本体組み立て後のハンドル組み立て方法についてご説明します。

※画像は代表モデルです。お買い求めいただいた自転車とは仕様が異なる場合があります。

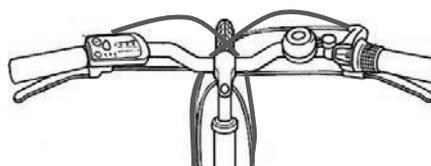
※手や指をはさんでケガをしないようにお気を付けてください。

1 - 本体の組み立て・・・9ページをご覧ください。

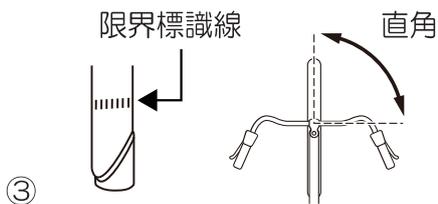
2 - ハンドルの組み立て



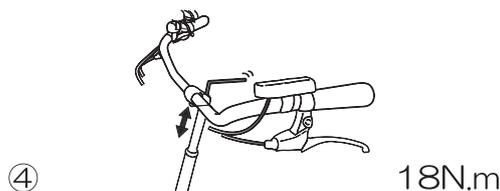
緩衝材やハンドルポスト先端のキャップを外します。キャップはハンドル上部のねじを緩めて取り外してください。



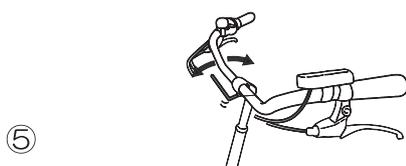
ハンドルを本体に差し込みます。このとき、左右の配線がカゴブラケットの上で交差するようにします。配線がねじれたりしていないことを確認してください。



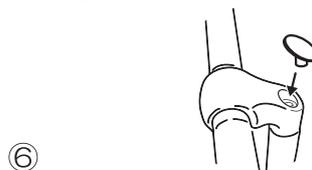
ハンドルの高さは限界標識線が見えない位置で調整してください。角度はタイヤと直角になるように調整します。



高さを調整したあと、六角レンチを使ってハンドルを確実に固定してください。固定したあと、ガタつきがないか確認してください。



ハンドルバーの角度を調整する場合は、ステム下のボルトを緩めて調整してください。調整後はボルトを締めなおして、確実に固定してください。(18N.m)



取扱説明書の袋の中にステムキャップが同梱されている場合は、ステムの上部ねじ穴にはめ込み装着します。

警告	<p>各部の固定を適正に行わないでご使用されると、事故につながる恐れがあります。点検をしていない自転車には乗車しないでください。</p>
注意	<p>ハンドルに“ガタつき”や“ふらつき”、その他異常を確認した場合は、ただちに使用をやめて、自転車店などにご相談ください。</p>
強制	<p>組み立て後は、自転車店などで必ず初期点検を行ってください。点検を怠った場合、品質保証を受けられない場合があります。</p>

自転車の組み立て 折りたたみ車

自転車本体を箱から出し、梱包材をすべて取り外してください。

折りたたみ自転車は、フレームの組み立てから行ってください。

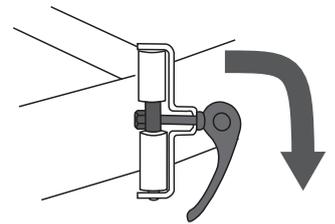
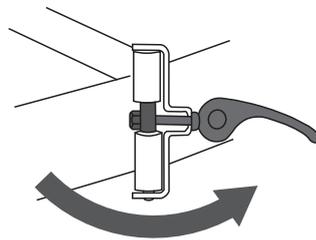
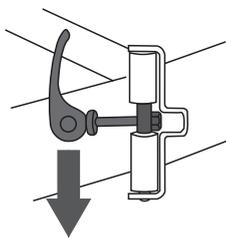
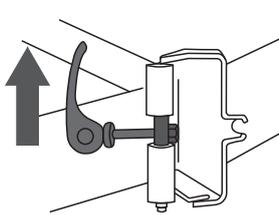
※画像は代表モデルです。お買い求めいただいた自転車とは仕様異なる場合があります。

※折りたたむ場合は逆の手順で行ってください。

※手や指をはさんでケガをしないようにお気を付けてください。

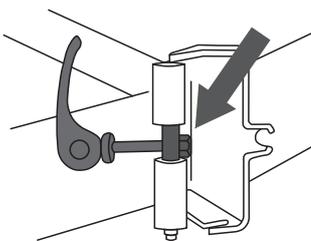
1 - 本体の組み立て

折りたたまれているフレームを開き、スタンドを立て安定させます。



レバーを引き上げながら前後のフレームを密着させます。正しくセットされるとレバーが下にさがりロックされます。

レバーを車体前方に移動させます。移動させたあと、レバーを下方に押し倒して固定します。倒したあと、手・指にレバーのあとが残るくらいが適正です。最後にしっかり固定できていることを確認してください。



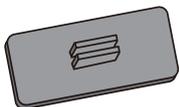
●レバー調整のしかた

レバーを倒すのが固い、またはゆるい場合は、レバー先端についているナットで調整することができます。

固定がゆるいと大変危険です。

ナットを強く締めすぎても部品の破損につながる恐れがあります。

ご自身で調整が難しいときは自転車店などにご相談ください。



本体下部についている樹脂プレートは輸送時の保護カバーです。取り外してご使用ください。



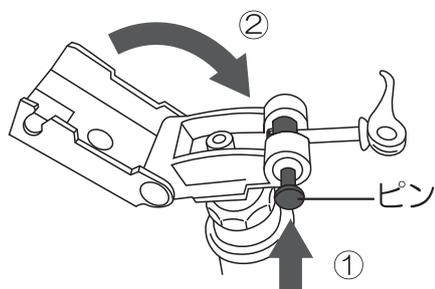
注意

乗車するときは必ずレバーがしっかり固定されていることを毎回確認してください。固定がゆるいと、乗車中にフレームが開いて事故につながる恐れがあります。適正に組み立てができないときはお近くの自転車店などにご相談ください。走行中にガタつきを感じたときは、使用をやめて点検を行ってください。

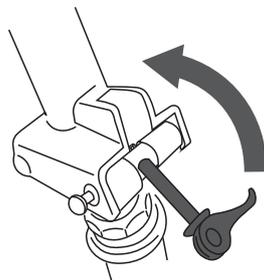
2 - ハンドルの組み立て

折りたたまれているハンドルを起し立ち上げます。

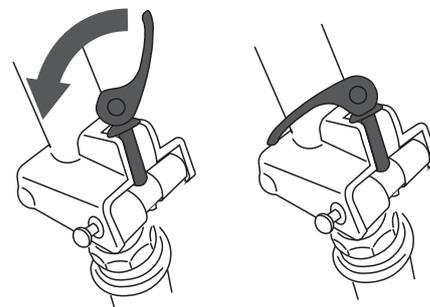
※ハンドルの高さ調整はできません。



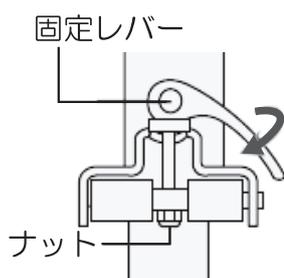
ピンを押しながらハンドルを立ち上げ上下を密着させます。正しくセットされるとロックされます。



レバーを持ち上げ、ハンドルに沿うように設置します。



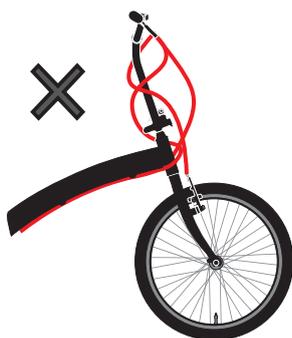
レバーをハンドルに沿うように押し倒して固定します。倒したあと、手・指にあとが残るくらいが適正です。



●レバー調整のしかた

レバーを倒すのが固い、またはゆるい場合は、レバー先端についているナットで調整することができます。

固定がゆるいと大変危険です。ナットを強く締めすぎても部品の破損につながる恐れがあります。ご自身で調整が難しいときは自転車店などにご相談ください。



※ハンドルの向き・ワイヤー類の取回しに注意してください

ハンドル周辺のワイヤー類が車体やワイヤー同士等で絡み合わないようご注意ください。ワイヤー類が絡んでいるとハンドルの操作性・ブレーキの制動性に悪影響をあたえるため大変危険です。また、操作パネルやライトの配線が断線する原因となります。

⚠ 注意

乗車するときは毎回必ずレバーがしっかり固定されていることを確認してください。固定がゆるいと乗車中にハンドルが折れて事故につながる恐れがあります。組み立て時は、配線の取り回しに注意してください。配線がねじれていたり、ハンドルに巻きついている場合は乗車しないでください。走行中にガタつきを感じたときは、使用をやめて点検を行ってください。

自転車の組み立て スポーツ車

自転車本体を箱から出し、梱包材をすべて取り外してください。

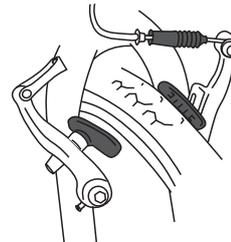
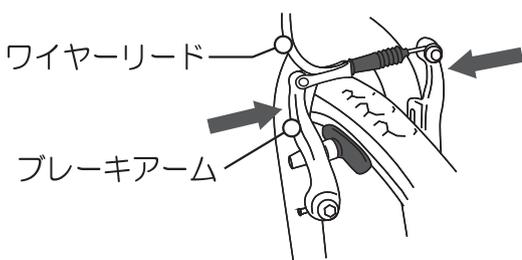
※画像は代表モデルです。お買い求めいただいた自転車とは仕様が異なる場合があります。

※手や指をはさんでケガをしないようにお気を付けてください。

1 - 前輪の組み付け

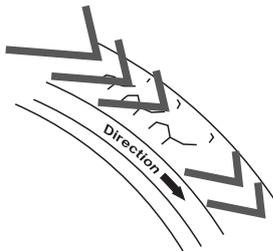
●Vブレーキを解放します。

ブレーキアームを左右から握りながら、ワイヤーリードを外側に引っ張り上に持ち上げ解放します。



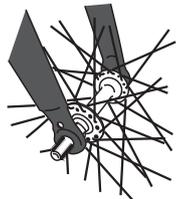
解放後は左右のアームが外側に大きく広がります

●組み付ける車輪の方向を確認します。



タイヤの側面に矢印で進行方向が記載されています。矢印が自転車進行方向に向くように組み付けます。タイヤの種類によっては矢印が記載されていないことがあります。その場合は、タイヤ表面のブロックパターンで進行方向を確認することができます。組み付けた時に、表面ブロックがタイヤ中心から外側後方に流れるようにします。

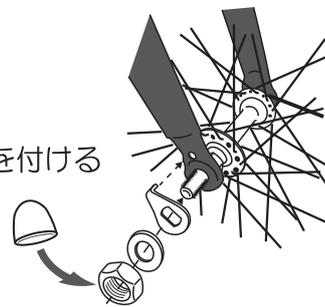
●車輪をFフォークに組み付けます。



①

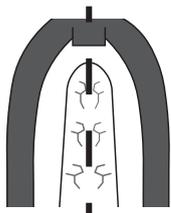
車体を持ち上げ、車輪の軸の上にFフォークの爪部をかけます。※爪部の奥まで車輪の軸が差し込まれていることを確認してください。

最後にキャップを付ける



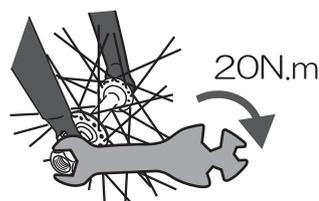
②

外側から“ナット → ワッシャー → 爪ワッシャー → Fフォーク → 車輪軸”の順番になっていることを確認してください。爪ワッシャーの爪部はFフォーク側の穴に入るように設置してください。



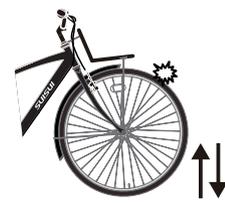
③

タイヤがFフォークの中心に位置するように調整をしながら車輪を固定します。



④

付属する簡易工具を使用して左右のナットを締め付けます。タイヤがFフォークの中心に位置するように調整をしながら締め付け作業を行ってください。



⑤

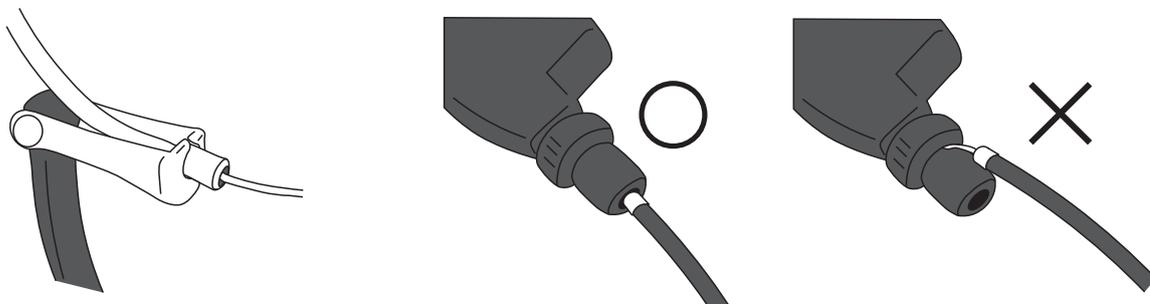
固定後は前輪を3cm程度持ち上げ、車輪を叩いたり、そのまま地面に落としたりして、車輪がずれたり、がたついていないかを確認してください。

●Vブレーキの組み付けなおし

車輪を組み付けた後は、はじめに解放したブレーキを元に戻してください。

ワイヤーリードの先端が、アーム側の引っ掛け部にしっかりはめ込んであることを確認してください。

ワイヤーリード上部とブレーキレバー側でも、ワイヤーが外れていないか確認してください。



※ブレーキの調整は生産時に行っていますが、前輪を組み付けた後に再調整が必要になることがあります。これはVブレーキの特性によるもので、また輸送中の振動等で組み付け等に緩みが生じることがあるためです。



警告

- 簡易工具で適正なトルクによる車輪の締め付け固定は困難です。
- 調整と締め付けが適正でない場合、車輪の固定が緩んだり外れたりすることがあり大変危険です。
- 組み付け後はブレーキ等の再調整が必要になることがあります。
- 組み付け後は、必ずお近くの自転車店等で点検を行ってください。
- ガタつき異音等を確認した場合は、直ちに使用を中止して点検を行ってください。

2 - ハンドルバーの組み付け

●六角レンチを使ってステムのボルトを緩ませ、クランプを取り外します。

●ハンドルバーをステムに取り付けます。ハンドルバーの中心部をステムにあて、外したクランプを上からかぶせてボルトを軽く締め付けます。

※このとき、ボルトは強く締めないでください。この後、ハンドルバーの位置・角度調整を行います。調整ができる程度にボルトを均等に締め付けましょう。

●ハンドルバーの位置を調整します。ハンドルバーには固定位置の目安になる横線が印されています。この横線がステムの中心にくるように調整してください。

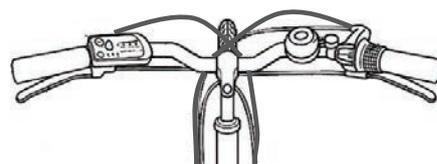
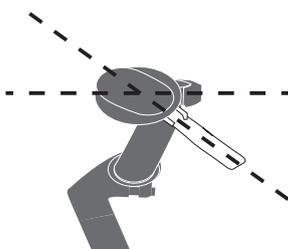
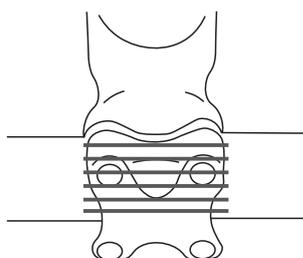
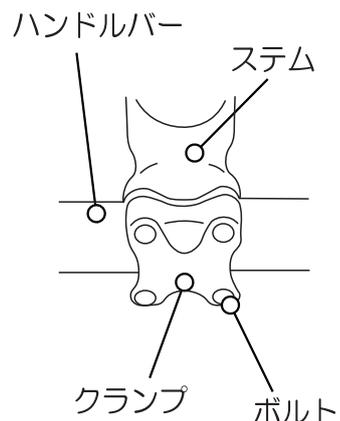
●ハンドルバーの角度を調整します。

角度はブレーキレバーの角度を目安にお好みの角度で設定してください。

※極端にブレーキの角度が高すぎる・低すぎる場合は、操作性が悪くなる場合があります。ご注意ください。

※左右の配線がよじれていたり、ハンドルバーに巻き付いている場合は組み付けが誤っています。

配線の断線・ブレーキ操作に影響しますので、再度組み付けを行ってください。

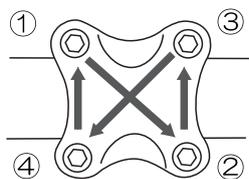


●ハンドルバーを固定します。

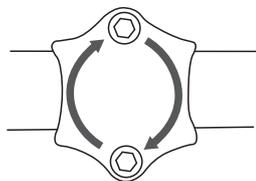
ステムのボルトを六角レンチを使って、上下左右交互に少しずつ締め付けていきます。

ステム本体とクランプの間隔が上下均等になるように締め付けます。

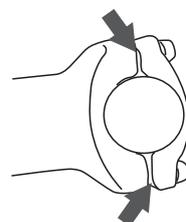
※一箇所のボルトだけを一度に締め付けると適正に固定できません。走行中にハンドルバーが回転するなど重大事故につながる場合があります。必ず確実に固定してください。



※上下左右交互に少しずつ締め付ける

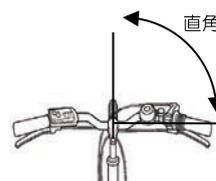


※ステム本体とクランプの間隔が上下均等になっていることを確認する



●ハンドル・ハンドルステムが適正に固定されているか確認しましょう。

ハンドルとタイヤが直角になっていること、強くブレーキをかけながらハンドルを前後に動作させたときにガタつきがないことを確認してください。



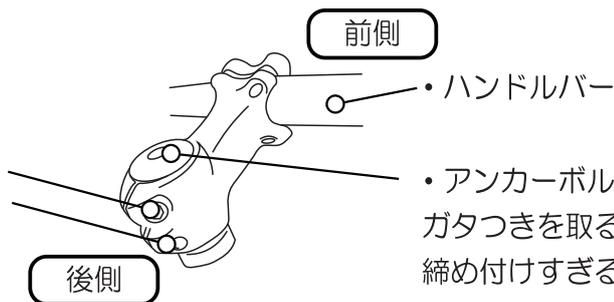
強制

組み付け後は、必ずお近くの自転車店にて点検を行ってください。

3 - ハンドルステムの調整

・クランプボルト

六角レンチを使い、上下交互に均等な力で締め付けてください。

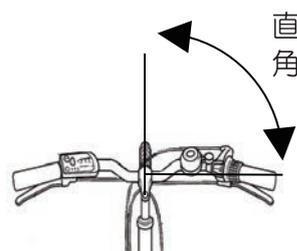


・アンカーボルト

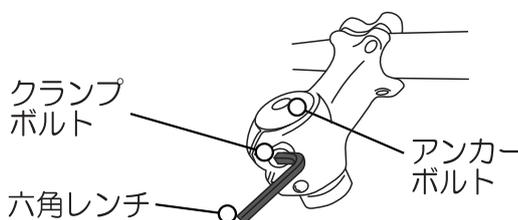
ガタつきを取るための調整ねじです。締め付けすぎると破損してしまいます

- ①付属の六角レンチを使用して2本のクランプボルトをゆるめ、横向きに固定されているハンドルステムの位置をハンドルバーとタイヤが直角になるように調整します。

※ブレーキワイヤー等がハンドルやフレームに絡まないように取り付けてください。



- ②上下2本のクランプボルトを交互に締め付けハンドルステムを固定します。



- ③上下のボルトは均等に締め付けてください。



- ④ハンドルが確実に固定されているか、ガタつきがないか確認してください。ガタつきがある場合は、クランプボルトをゆるめた状態にしてから、アンカーボルトを締め込んで調整してください。



⚠ 注意

- 上下のクランプボルトは均等に締め付けてください。締め付けにバラつきがあると、確実に固定できません。事故につながる恐れがありますので注意してください。
- ステムを固定するためのねじはクランプボルトです。上部にあるアンカーボルトは、ガタつきを確認したときのみ使用するねじです。
- アンカーボルトの調整は、クランプボルトをゆるめてから行ってください。
- アンカーボルトは締め付けすぎると破損してしまう恐れがあります。破損はした際は保証対象外となりますので、注意してください。
- 組み付け後は、必ずご購入店またはお近くの自転車店にて点検を行ってください。

自転車の組み立て 全車種共通

1 - ペダルの取り付け

ペダルには、右側用（R）と左側用（L）があります。

左右を間違えて無理に取り付けるとネジ山が破損することがありますので必ず正しく装着してください。

ペダルの軸の端面に「R」（右側用）、「L」（左側用）の刻印があることを確認してください。

（左側用の軸にはギザギザのきざみがありますので確認してください。）



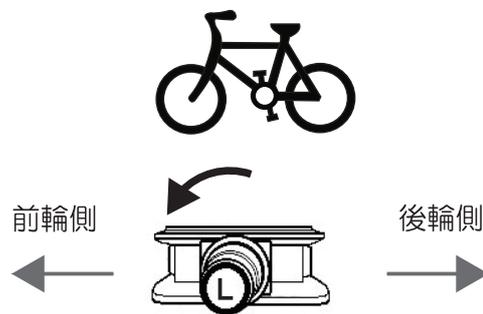
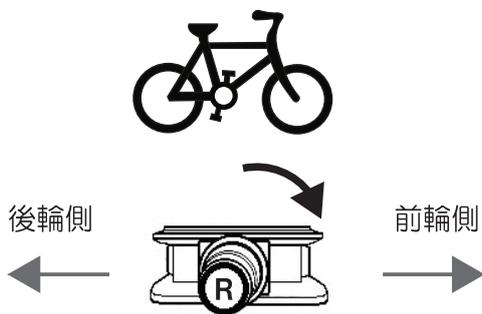
ペダル軸にきざみがあるのが左側用ペダル

●右側ペダルの取り付け

右回し（時計回り）にペダル軸を回してください。ペダル本体を回しても取り付けすることはできません。軸だけを回してください。

●左側ペダルの取り付け

左回し（反時計回り）にペダル軸を回してください。ペダル本体を回しても取り付けすることはできません。軸だけを回してください。



はじめに手でねじ込めるところまで固定してください。ペダルがクランクにまっすぐ入っていることを確認してから、付属の工具で最後まで確実に固定してください。最後にガタつき等がないか確認をしてください。



注意

ペダルを無理矢理クランクにねじ込まないでください。無理矢理ねじ込むとクランクが破損し、走行中にペダルが脱落する可能性があります。事故・ケガにつながり大変危険なうえ、破損したクランクは交換が必要になることがあります。

※誤った取り付けによる部品の破損は保証の対象外となりますのでご注意ください。

※取り付け後にバリが生じた場合は、必ず取り除いてください。

2 - カゴの取り付け

●付属品の確認

カゴ下側（底面）の部品	ねじ / 2 本 	底板プレート / 1 枚 	ワッシャー / 2 枚 
カゴ側面（ハンドル側）の部品	ねじ / 2 本 	ナット / 2 個 	ワッシャー / 2 枚 プレート / 1 枚 
	ねじ / 2 本 	ナット / 2 個 	ワッシャー / 4 枚 

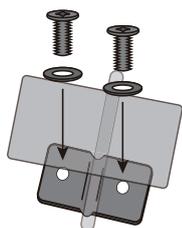
※車種により付属品が異なる場合があります。

※カゴ取り付け部品が既に自転車に仮止めされているものもあります。

※黒の保護キャップが付属されている場合は、カゴ取り付け後に各ねじの先端に装着してください。

●カゴ下側（底面）の取り付け

底板プレートをカゴ足の下側に添えて、カゴと底板でカゴ足をはさみ、ワッシャーを通したねじをカゴ内側から底板プレートのねじ穴に入れて仮止めします。カゴ足の位置は手で力を加えて調整してください。



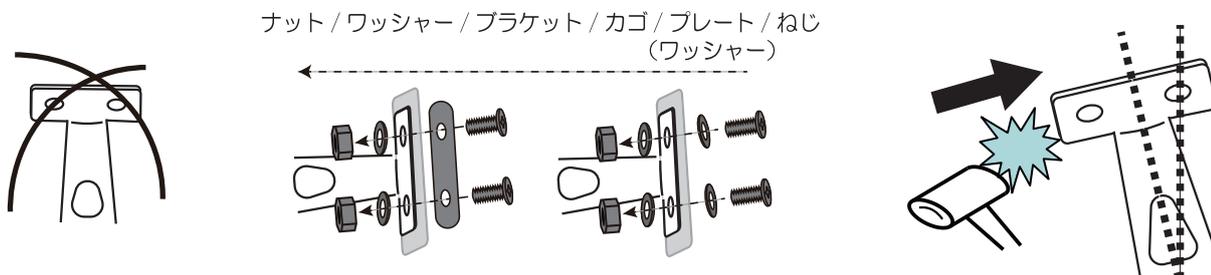
※上から順番に ...

- ねじ
- ワッシャー
- カゴ本体
- カゴ足
- 底板プレート



●カゴ側面（ハンドル側）の取り付け

ハンドルから伸びているワイヤー類をカゴブラケットの上部で交差させて、前カゴを取り付けます。ワッシャーを通したねじをカゴの内側からブラケットの穴に通し、反対側からワッシャー・ナットを付けて仮止めします。カゴブラケットが曲がっている場合は、当て布をかぶせたハンマー等で叩いて調整してください。



●カゴの位置を調整して本締め

仮止め後、カゴが水平になるようにカゴの角度とカゴ足の位置を調整して本締めを行います。

外側からスパナ等でナットを固定し、内側からドライバーでねじを締めて取り付け完了です。

黒色のキャップが付属されている場合は、本締めした後に、ねじ・ナットの先端に装着してください。

キャップは必ずしも装着するものではありません。

 : 底面ねじ用

 : 側面ナット用

●ライト配線の固定（底面プレートにライトが装着されている自転車）

付属されている結束バンドを使って、カゴ底面にライトの配線を固定してください。

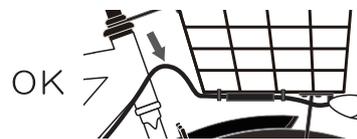
配線は後方に余裕をもたせてください。ライト側の前方部に配線が集中するとハンドルを回転させたときにライトの配線が断線することがありますので注意してください。



2カ所を結束バンドで固定



配線は後方に引っ張る



OK
後方に配線を余らす



NG
配線が前方によっている



注意

ライトの配線は必ずカゴに固定してください。固定しないで使用されると、車輪に巻き込まれる可能性があり大変危険です。配線は後方に張った状態で固定し、後方に余裕を持たせてください。装着方法を誤ると、配線の断線につながります。

荷物を載せるとき

●積載条件

	積載重量	積載する荷物の大きさ
前カゴ	3kg まで	カゴにおさまる大きさ（視界を妨げない高さ）
リヤキャリア	リヤキャリアに表示された重量 27kg 表示（クラス 27） 25kg 表示（クラス 25） 18kg 表示（クラス 18）	幅：リヤキャリアの左右から 10 cm まで 長さ：リヤキャリアの長さから 10 cm まで 高さ：リヤキャリアから 30 cm まで

※荷物を積載すると安定性が損なわれます。定められた積載条件以上の荷物は積まないでください。

※荷物は確実に固定してください。ひもやベルトを使用して荷物を固定する場合はゆるまないように注意してください。ゆるんだひもやベルトが車輪に巻き込まれると大変危険です。

※荷物の運搬にキャリア及びカゴ以外は使用しないでください。

※荷物を積載すると操作性や制動性が変わります。不安を感じた場合は荷物を減らしましょう。

※積載量が増えるとバッテリーの消費が増え、アシスト走行できる距離は短くなります。

また、タイヤなどの消耗品の劣化が早まります。

※幼児用座席は 25kg 表示（クラス 25）もしくは 27kg 表示（クラス 27）のあるリヤキャリアのみに取付けができます。取付けるときはリヤキャリアの表示を確認してください。

幼児用座席の取り付けについて

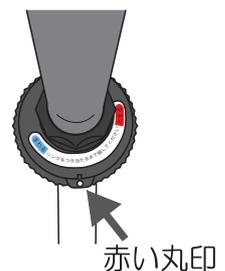
- 幼児用座席を取り付ける際に、必ずご確認ください。
 - 自転車に幼児用座席を取り付けるときは、本取扱説明書および幼児用座席の取扱説明書の指示に従ってください。
 - 自転車に乗せることのできるお子様は一人です。
 - 幼児用座席を取り付ける際は、お子様の足が車輪に巻き込まれないように、ガードが付いていることをご確認ください。
 - 幼児用座席の取り付けは販売店にご依頼ください。
 - お子様の体重と幼児用座席の重量の合計がキャリアに表示された重量以下であることをご確認ください。
-
- 幼児用座席のご使用の際に、必ずお守りください。
 - お子様の安全についてはとくにご注意ください。お子様から目を離さないでください。
 - お子様の体重が、幼児用座席が指定する最大適用体重以下であることをご確認ください。
 - 走行中はお子様に自転車用ヘルメット（JIS T8134 と同等以上）を着用させてください。
 - ご使用の際は、必ず幼児用座席が後荷台などに、確実に固定されていることをご確認ください。
 - 幼児用座席にお子様を乗せるときは、必ずスタンドのロックが確実にかかっていることをご確認ください。
 - お子様を乗せたまま、自転車から離れないでください。
 - ご使用の際は、必ずシートベルトを着用してください。
 - お子様自転車の回転部や作動部にさわらないように十分ご注意ください。
 - お子様自転車の近くにいるときは、お子様から目を離さないでください。

ハンドルロック（くるピタ）の操作説明

- 幼児用座席取り付け推奨車種には、ハンドル部にハンドルロック機能が装備されています。駐輪する際やお子様を自転車に乗せ降ろしする際にご使用ください。安全機能として備わっていますが、ご使用方法を誤ると大変危険です。操作方法を十分にご理解ください。

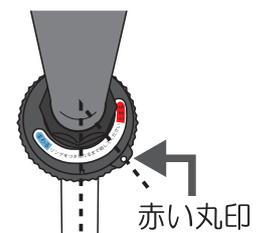
1 - ロックの解除方法

- ハンドルロック装置はハンドルの下に装着されています。
- 赤い丸印を“まわる”と青色で記載されている方向（時計回り）に回してロックを解除します。
- 赤い丸印が下部に位置（正面に位置）していることを確認してください。



2 - ロックの方法

- 赤い丸印を“とまる”と赤色で記載されている方向（反時計回り）に回らなくなるまで回してください。
- 赤い丸印が回らない・回ってもハンドルがロックされない場合は、ハンドルを左右に少し動かしながら、もう一度回してください。



注意

ロックを解除した後は、ハンドルがスムーズに動作するか必ず確認してください。動作に引っ掛かりが確認される場合は解除操作をもう一度やり直してください。改善されない場合は販売店もしくはお近くの自転車店にご相談ください。